

大豆栽培管理情報 (収穫)

令和4年10月17日
高岡市農業協同組合
高岡農林振興センター

大豆の収穫について

成熟の進んだほ場から収穫を開始し、適期内に収穫を進めましょう。
収穫が遅れると、「しわ粒」や「腐敗粒」が増加するとともに子実の光沢が低下します。

1. 収穫開始の目安

- ・品種や作型（単作・麦跡）ごとに莢の色を確認し、適期収穫に努めましょう。
- ・コンバイン収穫は日中（午前10時～午後4時）に行い、刈取高さは10cm程度、作業速度は0.4～0.8m/秒とし、汚損粒や収穫ロスを防ぎましょう。

品種	成熟期	収穫開始の目安
えんれのそら(単作)	10月中旬頃	莢の90%以上が褐色になり、子実水分が22%以下となった頃
シュウレイ(単作)	10月中下旬頃	莢のほとんどが褐色になり、子実水分が20%以下となった頃

■「えんれのそら」の刈取始期前後の褐色莢率（目安）



褐色莢率	67%	80%	90%	97%
子実水分	36%	27%	22%	17%

刈取始期

2. 雑草や青立ち株の抜き取りを徹底する

- ・雑草や青立ち株は汚損粒の原因となるため、必ず収穫前に抜き取ってください。
- ・特に、下記の難防除雑草の発生が問題になっているため早めに抜き取ってください。

イヌホオズキ



熟すと黒い実をつける

ヒロハフウリンホオズキ



ホオズキの様な果実

ホソアオゲイトウ



茎の液による汚損

3. コンバイン収穫のポイント

1. 汚損粒の発生防止のため、収穫前までに必ず青立ち株や大きな雑草を取り除きましょう。
2. 刈り取り高さを地際から10cm程度に調整し、こぎ胴に泥が入らないようにしましょう。
3. 収穫は、大豆が乾いている午前10時～午後4時頃までを目安に行いましょう。
(特に降雨後は、莢を触って乾いていることを確認しましょう。)
4. 作業速度は、ゆっくり(0.4～0.8m/秒程度)、丁寧に行いましょう。
5. 黒根腐病(早期に落葉し、容易に引き抜ける株)のまん延を防ぐため、収穫作業は病気が発生していないほ場から行い、収穫作業後は機械を洗浄しましょう。(黒根腐病は罹病株残渣や汚染土壌で広がる土壌伝染性病害です。)
6. 帰化アサガオ類やイヌホオズキ等の難防除雑草が発生したほ場の収穫は、コンバインに付着した雑草種子が他のほ場に移らないよう最後に行い、作業後は機械を洗浄しましょう。

～コンバインの操作は慌てず、丁寧に行いましょう～

《収穫のチェック項目》

収穫を始める前に、チェックしましょう

	チェック	作業内容
収穫前に確認		ほ場全体の莢の熟色を確認! (同じ播種日・栽培方法であっても成熟期は異なるので、必ず確認する。)
		汚損粒の発生防止のため、収穫前までに青立ち株や大きな雑草を取り除く。
		収穫は、大豆が乾いている午前10時～午後4時頃までを目安に行う。
収穫開始時に確認		刈り取りの高さは、地際から10cm程度に調整し、泥が入らないようにする。
		コンバインでの作業速度は、0.4～0.8m/秒程度でゆっくり丁寧に行う。
収穫後に確認		収穫後の豆殻や茎は早めにすき込み、腐熟を促進させる。
		次年度大豆作付け予定ほ場の排水対策を行う。(額縁排水溝・弾丸暗渠の設置)

4. 大豆収穫後の作業

1. 大豆収穫後の豆殻や茎は早めに浅くすき込み腐熟を促進するとともに地力増強に努めましょう。
なお、難防除雑草(帰化アサガオ類、イヌホオズキ類等)の実が熟している時は、収穫後のすき込みは実施せず、地表面に落下した実をそのまま放置し、寒気にあて、できるだけ発芽能力を低下させましょう。
2. 中耕培土で地面が凸凹になっているので、早めに整地均平を行いましょう。このことにより次年度、水稲へ復帰した場合に水田作業が楽になります。